

人間国宝 狂言師・野村万作 芸と人生を語る

連続講演 「万作・狂言十八選」によせて

聞き手：名古屋女子大学教授・林 和利



野村万作 (二世)

狂言師。1931年東京生まれ。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。3歳で初舞台。早稲田大学卒業。1950年万作を襲名。「万作の会」主宰。大曲「釣狐」に計26回取り組んだ様子はNHKドキュメンタリーにも取り上げられ、広く知られている。戦後の伝統芸能不遇の時代から狂言の普及に努め、広く支持を集めている。芸術祭大賞、日本芸術院賞、紀伊國屋演劇賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞など受賞多数。2006年 朝日賞受賞、2007年 重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)認定。著書に「太郎冠者を生きる」(白水社uブックス)がある。

2007年に人間国宝の認定を受けた狂言師・野村万作氏を招いた連続講演会を開きます。対談形式のインタビューで、これまでの芸歴70年を超える狂言の道、生き様など人間万作の魅力を聞き出すとともに、2006年から4年に渡り開催し、今年秋に最終回を迎える企画公演「万作・狂言十八選」からいくつかを取り上げて、これまであまり知られていないエピソードも披露します。※狂言の映像も放映予定。

万作氏の集大成となった公演「万作・狂言十八選」は、和泉流狂言254演目(曲)の中で代表的な、今の観客がおもしろいと思える演目を氏が選んだもの。万作氏がそれぞれ思い入れを持って選んだ「二人袴」「宗論」「髭櫓」「舟渡聲」「武悪」「靱猿」「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「木六駄」「川上」「法螺侍」「棒縛」「萩大名」「庵の梅」「茸」「花子」「柑子」の18曲からは、狂言の多様性が浮かび上がります。



林 和利

名古屋女子大学教授、文学博士。1952年兵庫県篠山市生まれ。早稲田大学で国文学・演劇学を学ぶ。研究領域は能・狂言を中心とする日本の古典演劇。博士論文は「能・狂言の生成と展開に関する研究」。中世文学と日本文化全般が守備範囲。東京時代、野村万作師に入門して狂言の実技を習う。著書に「なごやと能・狂言」(風媒社)など。名古屋の狂言の活性化のために尽力し、自称「名古屋の狂言の応援団長」。

■日時 6月5日、12日、26日

土曜日 14時～15時半

■会場 愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパス講堂
(地下鉄東山線「星ヶ丘」下車3分)

■受講料 ACC・なごや万作の会、名古屋稲門クラブ
各会員 3回通し9,500円 各回3,500円
一般 3回通し11,000円 各回4,000円
※会場での当日受付は致しませんので、あらかじめ朝日カルチャーセンターへお申し込みください。

会場案内図



朝日カルチャーセンター
朝日JTB・交流文化塾

名古屋

名古屋市中区栄3の4の5
スカイル10階
Tel 052-249-5553

後援：朝日新聞社、なごや・万作の会、名古屋稲門クラブ
協力：愛知淑徳大学エクステンションセンター